

2025年度

アルミニウム二次地金・同合金地金生産

生産・出荷ともに微増

一般社団法人日本アルミニウム合金協会はこのほど2025年度（2025年4月～2026年3月）のアルミニウム二次地金と同合金地金の生産と出荷の実績を発表しました。

生産量は710,023トンで前年比1.4%増加し、出荷量も708,927トンと前年比1.1%増加し、70万トン台を維持しました。

産業部門別の出荷をみると、主力のダイカストは前年比3.3%増、鋳物も1.2%増えましたが、板や鉄鋼は減少しました。

政府の経済動向に関する発表では、令和7年度の我が国経済は、賃上げ率が2年連続で5%を上回るな

ど、「デフレ・コストカット型経済」から、その先にある新たな「成長型経済」に移行する段階まで来たとされており、景気は緩やかに回復しており、実質国内総生産成長率は1.1%程度の上昇率になると見込まれております。

このような経済状況の中で、令和7年度は、アルミニウム二次合金の需要を支える我が国の自動車メーカーの国内生産が回復してきた一方で、アルミニウム二次合金の原料となるアルミスクラップの発生量の減少とスクラップ価格が高止まりする状況により、業界として厳しい環境に直面した年となりました。

アルミ二次地金・同合金地金の生産と出荷

		2023年度	2024年度	2025年度
総	生産量	729,642 (+0.9)	700,326 (-4.0)	710,023 (+1.4)
総	出荷量	733,508 (+0.8)	701,436 (-4.4)	708,927 (+1.1)
部門別 出荷 量	ダイカスト	400,379 (+1.6)	380,312 (-5.0)	393,022 (+3.3)
	鋳物	202,691 (+1.0)	193,091 (-4.7)	195,410 (+1.2)
	板	52,481 (+0.2)	51,344 (-2.2)	47,006 (-8.4)
	押出	12,014 (-16.3)	12,122 (+0.9)	12,842 (+5.9)
	鉄鋼	40,375 (-2.3)	40,104 (-0.7)	37,595 (-6.3)
	合金メーカー向	24,226 (+1.6)	22,958 (-5.2)	21,624 (-5.8)

(単位：トン、カッコ内は前年比パーセント)

日本アルミニウム合金協会 定時総会

一般社団法人日本アルミニウム合金協会は5月20日に東京霞ヶ関の霞山会館で第52回定時総会を開催しました。総会では下記の新役員が選任されました。

会長 香山昌志 氏（日軽エムシーアルミ）

副会長 田代裕一 氏（エスエスアルミ）

副会長 林 繁典 氏（大紀アルミニウム）

専務理事 伊藤 浩 氏

最近発表された政府の月例経済報告では、「景気は、米国の通商政策の影響が残るものの、緩やかに回復している。」とされており。

政府は、「責任ある積極財政」の考えの下、国民の暮らしを守る物価高対策を早急に講じるとともに、日本経済の強さを取り戻すため、『「強い経済」を実現する総合経済対策』を打ち出し、戦略的に財政出動を行い、経済・物価動向に応じて機動的な政策運営を行っていくとしています。

令和8年度の経済見通しにおいて、令和8年度の実質GDP成長率は1.3%程度、名目GDP成長率は3.4%になると見込まれており、一方で、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動等の影響には十分注意する必要があります。

このような状況下、昨年は、アルミニウム二次合金

の需要を支える我が国の自動車メーカーの国内生産が回復してきた一方で、アルミニウム二次合金の原料となるアルミスクラップの発生量の減少とスクラップ価格が高止まりする状況により、業界として厳しい環境に直面した年となりました。

令和8年度は国内自動車生産の更なる回復に期待するとともに、それに伴うアルミ合金需要の増加に対し、原料のアルミスクラップの安定調達、価格変動への対応等、様々な課題に的確に対応していくことが重要になっています。

また、近年、カーボンニュートラルへの取り組みから、再生アルミに対する関心が高まっております。国内で発生するアルミスクラップを重要な基礎素材であるアルミニウム二次合金として安定供給することにより資源循環の一翼を担い、二酸化炭素排出抑制に寄与するとともに、アルミ水平リサイクルにも貢献することができる当協会の果たすべき役割と責任は更に重大になっています。

当協会は、今後、従来にも増して情報の早期収集、伝達に努めるとともに、個別企業では対応できない諸問題に引き続き柔軟に取り組んで行く所存です。

西尾市危険物安全協会 定期総会

西尾市危険物安全協会の第65回定期総会が5月15日西尾市吉良町の三河湾リゾートリンクスで開かれました。

長坂誠会長より「中東情勢の不安定化による燃料等の供給不安の中、危険物の貯蔵、取り扱い、また運搬について安全確保を図ることは必要不可欠。私たち危険物に関わる者は、安全管理の徹底、適切な定期点検の実施、保安管理・事故防止対策の充実に努めることが重要。」とのあいさつの後、法人2社、個人2名の定例表彰が行われました。

今回、アスカ工業（株）は愛知県協会連合会表彰を受けました。



(写真・表彰状と危険物取扱管理者の都築勘弥さん)

金属盗対策法 6月に施行 銅スクラップ買受業は届出義務

正式名称「盗難特定金属製物品の処分の防止等に関する法律」が6月中に完全施行されます。昨年9月より、犯行に使われる可能性のある用具規制や盗難防止情報の周知が先行して施行されていましたが、今回の法律は銅スクラップの買受業に関する措置です。

金属盗対策法が完全施行されると、銅スクラップを購入する事業者は、営業所の所在地を管轄する警察署を経由して、施行日から3ヶ月以内に「特定金属くず買受業」の届出を都道府県公安委員会に提出する必要があります。

現に特定金属くず買受業を営んでいる事業者も施行日から3ヶ月以内に届出する必要があります。猶予期

間が過ぎても届出せずに銅スクラップを購入した場合は、違法行為として処罰される可能性もあります。

現在は、全国17の道府県が盗難防止の観点から、金属くず条例を制定していますが、これとは別に金属盗対策法の特定くず買受業の届出が必要になります。

法律の施工後は、買い受ける相手の本人確認も義務化され、相手が個人の場合は身分証明書の確認などが必要とされます。

今回、法律の対象となるのは銅スクラップの購入のみですが、今後の被害状況を注視しながらアルミなど他の金属にも対象が広がる可能性もあります。

金属リサイクル許可制に 廃掃法改正を閣議決定

政府は4月10日、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法、廃棄物処理法）の一部を改正する法律案を閣議決定しました。

環境省の報道によれば、使用済みの金属・プラスチック物品を保管又は再生する事業場、いわゆるスクラップヤードは、資源循環の輪において重要な役割を担っています。しかしながら、近年、一部のスクラップヤードにおいて、騒音、水質汚濁、火災等の生活環境保全上の支障が報告されています。こうした状況を是正し、良好な生活環境の保全と公正な競争環境の整備を行うことが必要となっています。

また、災害廃棄物を適正、円滑かつ迅速に処理することは、被災者の生活環境を守り、公衆衛生の悪化を防止することに加え、被災地の速やかな復旧・復興の

ためにも重要です。

本法律案は、中央環境審議会よりの意見具申を受け、以上のような背景を踏まえ、使用済みの金属・プラスチック物品の保管又は再生を行う事業に対する規制を導入するとともに、非常災害により生じた廃棄物の適正、円滑かつ迅速な処理を一層推進するための制度的な措置を講じようとするものです。

◎スクラップヤードの規制強化

使用済みの金属・プラスチック物品の保管又は再生を行う事業について許可制を導入することとし、保管や再生に係る基準の遵守を求めることに加え、環境汚染のおそれのある物品について国内における再生を原則とし、その輸出について環境大臣の確認を要することとします。

三ヶ根山あじさいまつり



三ヶ根スカイラインは西尾市から形原温泉を結ぶ約5kmの道路で、「あじさいライン」として知られており、6月から7月上旬に約7万本のあじさいが咲く山路を抜けると、眼下に三河湾の大パノラマが広がります。

例年6月1日から6月30日まで「三ヶ根山あじさいまつり」が行われ、あじさいの花と三河湾の眺望が楽しめます。6月13日(土)には、三ヶ根山スカイライン山頂駐車場で、物産展や大抽選会などイベント盛りだくさんです。

(写真・あじさいと三河湾)

社 内 情 報

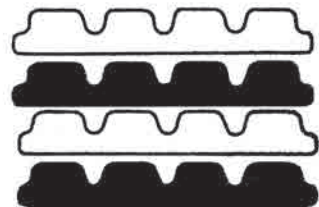
- ◎昨年に続き、30度で越える暑い日が増えそうです。
- ◎昨年改正された安全衛生規則に従って、脱水症の早期発見と適切な措置に努めます。
- ◎ホルムズ海峡の航行困難が続き、石油関連資材の供給不安が高まっていますが、今のところ操業に支障はありません。早期の解決を望みます。
- ◎アルミニウム合金協会の定時総会で、天野社長は引き続き常任理事に任命されました。
- 5月14日、米中首脳会談で、「両国はトウキディスの罫を乗り越えられるだろうか」と習近平国家主席からトランプ大統領に投げかける。
- 5月14日、日経平均株価が63,700円台を突破して、最高値を更新しました。
- 5月22日、米連邦準備理事会（FRB）の議長にケビン・ウォーシュ氏が就任。FRBの中立性が保たれることを祈ります。

アルミ缶リサイクルング 鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。

ISO 9001 認証取得 (KHK-ISO CENTER)

アスカ工業株式会社



〒444-0303
愛知県西尾市中畑町卯新田上28
TEL <0563> 77-0500(代)
FAX <0563> 77-0501
<http://www.al-asuka.jp/>